

豊山町人口ビジョン 概要

- 豊山町人口ビジョンは、町の人口の現状を分析した上で、目指すべき将来の方向（将来展望）を示すものです。
- 2055年以降の総人口の急減も踏まえて施策を検討する必要があることから、人口ビジョンの対象期間を2060年までとします。

■人口の現状分析

<人口>

- ・国勢調査による人口は、1965年から1975年の10年間で約7,000人弱から約14,000人弱へと倍増。住民基本台帳による人口は、2013年5月に15,000人を超え、現在も増加傾向。

<年齢別人口>

- ・国勢調査により5歳階級別人口をみると、2010年は男女とも35～39歳が最も高い。
- ・老年人口（65歳人口）は増加し、2005年に年少人口（0～14歳人口）を上回る。総人口に占める老年人口の割合は2010年で19.6%。（全国（23.0%）比較では低値）

<世帯構成>

- ・2000年から2010年にかけて単独世帯が7%増加

<人口動態>

- ・直近10年間の自然増減は、一貫して出生数が死亡数を上回る。また、社会増減は、一時的な転出超過を除いて転入超過傾向。

<合計特殊出生率>

- ・1998～2002年に1.42まで低下。その後2008～2012年に1.74まで上昇。（全国1.38、愛知県1.51を上回る）

<初婚年齢・未婚率>

- ・本町が含まれる清須保健所管内の平均初婚年齢は、男性30.8歳、女性28.8歳（2013年）。男女とも晩婚化傾向。未婚率については、全国や愛知県全体よりは若干、低いものの、25～29歳の男性で6割以上、40歳代前半で3割。

■人口減少が与える影響

<町民の生活への影響>

- 総人口の減少 ⇒ 商業施設等の撤退のおそれにより、地域住民の買物・医療・公共交通等の生活利便性の低下が懸念。
- 高齢者のみの世帯の増加 ⇒ 孤独死のおそれ、高齢者生活・介護の支障、災害時の助け合いの不足。
- 空き家の増加 ⇒ まちの空洞化、景観や治安の悪化の懸念。
- 生産年齢人口減少・老年人口の増加 ⇒ 地区活動の維持が困難になるおそれ、地域のにぎわい減少や、日常生活における地域の支え合いの不足が懸念。

<地域経済への影響>

- 地域の産業における人材不足、廃業の懸念。
- 国内市場の縮小及び産業構造の転換が進行。
- 医療・介護福祉サービスの産業は拡大していく可能性。一方、老年人口の減少段階では需要減少化。

<行政への影響>

- 生産年齢人口の減少による税収減。
- 老年人口の増加による社会保障制度の持続可能性の懸念。
- 人口構成の変化（少子高齢化の一層の進行）による行政サービスへのニーズの変化。

■人口の将来展望

（課題認識）

- 現状の人口増加傾向は2020年頃にピークを迎え、減少に転じるおそれがある。老年人口は増加し、生産年齢人口は減少していく。これにより、地域の将来に与える影響が懸念される。

人口ビジョンの基本方向（長期展望）

出生率の上昇と若年層の転入を促進（2060年に約16,000人を確保）

◎出生率の上昇（合計特殊出生率）2035年までに2.07を実現

- ・ 出産、子育てに関わる若年層の希望をかなえる
- ・ 未婚率や30代女性の転出傾向の是正

◎若年層の転入促進

- ・ 通勤流入人口の多さを活かした、若年世代の転入の一層の促進
- ・ 居住地としての魅力向上

○推計について

【出生率】以下の2パターンを想定

推計①：現状値1.74から2035年に1.8まで上昇、以降もこれが維持される（社人研中位推計）

推計②：2035年までに2.07（人口置換水準）を確保する（国の人口ビジョンを勘案）

○町の人口は、社会保障人口問題研究所の中位推計（推計①）によると、2060年には約1.3万人となり、2010年の人口のおよそ93パーセントにまで人口減少が進むものと見込まれます。

○一方、近年の人口移動状況と出生率の向上を見込んだ場合、推計②のとおり、2060年の本町の人口は約1.6万人となり、推計①よりも3千人弱程度、人口減少を抑制できる見込みとなります。（2010年からは1,500人程度の増加）

